

Title	東京歯科大学広報 第315号 2024年12月20日発行
Journal	東京歯科大学広報(315)
URL	http://hdl.handle.net/10130/6643
Right	
Description	

315号

WINTER 2024

東京歯科大学広報



第56回東歯祭 開催

第56回 結（ゆい）～人を



▲東歯祭ポスター



▲一戸達也学長（中央）、須佐美晶太実行委員長（左）、篠田英茉副実行委員長



▲オリジナルのカップケーキ

第56回東歯祭が、2024年11月2日（土）と3日（日）の両日にわたり開催された。当日は、人気ユーチューバーを招いての本部ステージ企画、各クラブによるステージ発表のほか、カフェや縁日、歯の模型ストラップづくり体験会などの企画が実施された。

「結（ゆい）」——多くの人との出会いや繋がりから、豊かな時間が創られることを願った今年のテーマのように、たくさんの来場者を迎え、大盛況にて無事に2日間を終えることができた。

▶テーマは「結（ゆい）～人を結ぶ力～」

テーマに込められた思いは、「忙しい毎日の中で忘れがちな、多くの人とのさまざまな形での繋がりや支えあい、人生をより豊かにしてくれる人との「結びつき」を大切にしたい」というものである。そのテーマをもとに、第4学年の真原芽希さんのポスターデザインが採用された。

▶人気ユーチューバーによるステージ特別企画

今年はステージ特別企画として登録者数160万人の動画クリエイターである人気ユーチューバーを招いた。学内および学外者へのチケット発行方法や受付方法、当日のステージ企画運営などを実行委員が念入りに準備し、当日は予想以上の集客を得ることができ、また新たな東歯祭の魅力が創られた。

このステージ特別企画には、硬式庭球部、軟式庭球部、バレーボール部の部員も一緒に参加し、より東歯祭らしいステージとなった。

▶恒例企画

毎年人気の企画である体験コーナーでは、歯のストラップ、指の模型、プラ板ストラップ作りが行われた。いずれも、顎模型から型取りをして作る歯と歯肉のストラップ、型取りをして自分の指の形の石膏模型の製作、プラ板に好きな絵柄を描いて作るストラップといったものを、学生スタッフの補助



▲M. L. S. 部によるステージ発表



▲ピアノの会による演奏



▲演劇部によるステージ発表

東歯祭 結ぶ力～開催

のもと体験することができる。大人から子どもまで、さまざまな年代の多くの方が体験に訪れ、補助につくスタッフが足りなくなるほどであった。

▶全体を通して

各クラブによるステージ発表では、M. L. S. 部、ピアノの会、演劇部、混声合唱部、管弦楽部、ダンス部が日頃の練習の成果を披露し、水道橋校舎新館血脇記念ホールは2日間も熱気に包まれた。どのクラブも、忙しい毎日の中で部員が集まり練習した成果を発表する姿は輝いており、観客を感動させるものであった。

東歯祭実行委員による本部企画として、今年は巨大カプセルトイ機を導入して水道橋校舎新館エントランスに設置。人気コーヒーショップのカードをはじめ本学オリジナルマスコットのぬいぐるみ、オリジナルペンなど豪華賞品がカプセルの中に入っており、列をなす人気スポットとなった。

水道橋校舎新館前においては、縁日部門による射的屋台、焼きそばと綿菓子の販売が行われ、また今年が初となる近隣飲食店も屋台にて飲食物を販売していただいた。特に縁日舞台による射的や綿菓子は小さな子どもたちの目を引き、家族連れで参加される様子が見られた。縁日では弓道部および水泳部の部員たちもお手伝いとして参加した。

また今年は、水道橋校舎新館エントランス内にてP-Com*によるブースおよび本学同窓会のブースが運営され、本学に興味のある学生などから質問を受けるなど、新しい試みも取り入れられた。

あいにくの雨天で迎えた初日であったが、2日目はその熱気が雨雲を吹き飛ばしたかのように晴れわたった。両日を通して多くの来場者に恵まれ、今年のテーマである「結」の瞬間がさまざまな場所で生まれ、そして昨年度の「ギア」でつながった縁が「結」ばれていき、東歯祭の伝統をさらに深め、より永く受け継がれるものとなった。

*P-Com：パシエントコミュニティの略。本学の教育にご賛同くださる地域の方々で構成された会



▲体験コーナーの様子



▲相変わらず人気のビバノスケ



▲第4学年磯山典克さんの説明を聞く学内ツアー参加者



▲同窓会ブースにて学生対応する同窓会の小枝義典副会長、佐々木葉子副会長



▲混声合唱部によるステージ発表



▲管弦楽部によるステージ発表



▲ステージのトリを飾ったダンス部のステージ発表

教授就任のご挨拶



化学研究室

西川 慶一

このたび2024年10月1日付けで化学研究室教授の職を拝命いたしました。ご推挙くださいました井出吉信理事長、一戸達也学長、高際 睦教養幹事をはじめ、審査の労をお執りいただいた選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。身に余る光栄でありますとともに、本学で求められている教養教育を実践するために、一層の努力が必要と身の引き締まる思いをしている次第です。

私は、配置換えにより、2015年に歯科放射線学講座から化学研究室に異動いたしました。歯科放射線学講座に在籍していた際に、何度か第6学年の学年副主任を担当させていただきました。その経験の中で、真面目に勉学に取り組んでいるのに成績がほとんど向上せず、第6学年次の年末になって「勉強の仕方がわからない」と嘆く学生に何度も遭遇しました。原因は、学修法が丸暗記型であり、第6学年次になって膨大な知識量が要求される状況になると、頭が飽和し、繰り返し詰め込んでも記憶しきれなくなったことにあります。解決法は学修法を丸暗記型から理解型に切り替えることですが、切り替えは一朝一夕にはできるものではありません。低学年のうちからの対策が必須だと考えております。

理解していれば、説明できます。説明できれば、忘れにくくなります。また、忘れても思い出しやすくなります。化学研究室に異動し、第1学年の教育に携わるようになって以降、理解型の学修法を身につけさせるため、すなわち「答えが言える」ではなく「説明できる」を習慣化させるため、授業、実習、期末試験の中で説明させることを頻回に求め、説明できるようになることの必要性を実感させるように努めてまいりました。第6学年になって「勉強の仕方がわからない」と嘆く学生を生じさせないことは、教養教育での私の大きな目標です。私の取り組みが少しでも役立っていることを期待しておりますが、まだまだ目標達成にはほど遠い状況のようです。より効果的な方法を工夫していきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

准教授就任のご挨拶



歯内療法学講座

山田 雅司

この度、2024年10月1日付けで歯内療法学講座准教授を拝命いたしました。就任にあたりまして、井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、選考委員会の先生方、ならびにご支援ご協力いただきました大学関係者、歯内療法学講座の諸先生方に、深く御礼申し上げます。

2003年に東京歯科大学を卒業した後、関根永滋教授が創始した日本最古の歯内療法学講座に入局いたしました。常に先駆者であることを目指して臨床、研究、教育に尽力してきた先人たちの想いを受け継ぎ、この伝統ある講座の准教授に就任することは、大変光栄であるとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。歯内療法学は「歯」を生かし支える歯科治療の根幹を担う学問の一つであり、どの分野にも密接に関わります。解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、病理学とともに歯と歯周組織の正常構造と病態について、歯科理工学と歯科材料と器具の構造と機能について、さらには微生物学、衛生学、社会歯科学とともに公衆衛生と現在の歯科医療における歯内療法学について、それぞれの分野との横につながる関係性をわかりやすく丁寧にとともに勉強していきたいと考えております。

これまで私は、歯内療法学の基礎を習得した後にペンシルバニア大学歯内療法科で技術研修し、当講座の伝統的手法と融合させることで、日本の歯科事情に最適化かつグローバルスタンダードな歯内療法学を目指して日々研鑽してまいりました。今後は歯内療法専門医として自身の経験と知識を外部へ発信し、学生のみならず大学院生、レジデント、一般開業医などの先生方に伝えていければと考えております。

研究におきましても、大学院の頃より臨床に密接に関係する根管解剖学の三次元的解析を行ってまいりました。現在は国際共同研究として、人種による根管形態の差異の世界60か国の大規模調査を行っております。加えて、トロント大学歯学部へ留学させていただいた経験を活かして、再生歯内療法分野の研究も邁進していく所存でございます。

これからも東京歯科大学の発展のため努力していく所存でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

市川総合病院 2024年度第1回総合防災訓練実施

2024年9月9日（月）午後2時30分より、市川総合病院において、建物設備などの点検および自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

午後2時30分より、消火器および屋内消火栓取扱訓練が市川市西消防署署員および防災センター職員の指導により行われた。水消火器・散水ホースを使い、火災に見立てた的に向け放水体験をし、実際の火災時に慌てることなく使用できるよう使用方法の確認をした。

午後3時30分からは、火災発生を想定した通報・避難訓練が5階東病棟男子トイレを発火場所として行われた。病棟職員と防災センター職員の組織的な活動と消防用設備の有効活用により、館内の職員および患者の安全を確保するための初期消火活動から、実際に模擬患者などを設定して実践さながらの避難・誘導がスムーズに進められた。最後に市川市西消防署署員と当院の防火・防災管理者である水野利彦事務部長より講評をいただき終了となった。



▲消火器・屋内消火栓取扱訓練の様子



▲避難訓練の様子



千葉歯科医療センター医療連携講演会開催

2024年9月19日（木）午後6時より、京成ホテルミラマーレ（千葉市）において、東京歯科大学千葉歯科医療センター医療連携講演会が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会、習志野市歯科医師会、印旛郡市歯科医師会、市原市歯科医師会、八千代市歯科医師会、船橋歯科医師会、江戸川区歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉歯科医療センターとの連携強化を目的として開催している。

演題は毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会のセンター外委員と千葉歯科医療センターのセンター内委員で構成されている医療連携協議会で決定しており、3部構成で開

催された。当日は千葉歯科医療センター関係者を含め128名の参加者を迎え、伊藤太一千葉歯科医療センター副センター長司会のもと、大神浩一郎千葉歯科医療センター副センター長の挨拶にて始まり、第1部30分、第2部30分、第3部20分、意見交換会30分にて行われた。

参加者アンケートでは、「現代の社会変化に沿った内容で日々の診療に対しての疑問などつながって大変勉強になりました」「歯周組織再生療法のさまざまなケースが見れて勉強になった」などの声が寄せられ、大変有意義な講演会となった。

第1部 歯周組織再生療法—基本手技と治療成果—

座長：久永竜一（千葉歯科医療センター一般歯科系部長）

演者：備前島崇浩（千葉歯科医療センター保存科）

第2部 超高齢化社会に対応するインプラント治療

座長：石井武展（千葉歯科医療センター育成歯科系部長）

演者：伊藤太一

（千葉歯科医療センター口腔インプラント科）

第3部 診療科より

座長：大神浩一郎（千葉歯科医療センター副センター長）

- ・歯科放射線科より：保険診療に係るCBCTの撮影について

演者：小郷直之（千葉歯科医療センター口腔外科）

- ・総合診療科より：若手歯科医のキャリアアップについて

演者：吉田柊野（千葉歯科医療センター総合診療科）

意見交換会

◀演題および演者

2024年度第5回水道橋病院教職員研修会開催

2024年9月24日（火）午後6時より、オンラインにて、2024年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「カルテ記載の注意点」と題して水道橋病院診療録指導委員会幹事委員の山梨由美子先生による講演、「処方箋の発行に際して」と題して山根理恵子主任薬剤師による講演が行われた。

「カルテ記載の注意点」の講演では、特定共同指導を受けてカルテ指導の注意点として講演いただいた。まずはじめに概要として保険医療機関および保険医に対する指導の形態、指導の法的根拠と目的、指導のポイントの3点についてお話いただいた。次に歯科疾患管理料（文書提供加算・長期管理加算）、初診料、歯周病検査、投薬などカルテ記載が不十分であると実際に指摘された一部の事項の中からカルテ記載のポ

イントをお話いただいた。最後に手書きカルテから電子カルテに向けて今から注意したいことを詳細に説明いただいた。

「処方箋の発行に際して」の講演では、入力方法について具体的事例をあげ、気を付けるべき点や間違いやすい点、処方の際に注意したい薬や最近見かけた気になる処方箋、2024年10月から選定療養が開始となり処方箋が変更になる点について説明された。最後に薬局からのお願いをお話いただき講演をまとめられた。

カルテ記載の注意点や、電子カルテに向けて今から準備できること、処方箋の発行方法について知ることができた今回の研修会は、保険医のみならず、歯科医療に携わる水道橋病院のすべての教職員にとって大変有意義な内容となった。

第5回研修歯科医教育セミナー開催

2024年9月26日（木）午後6時より、千葉歯科医療センター講義室において、千葉歯科医療センターの研修歯科医、臨床研修主任指導者を対象とした研修歯科医教育セミナーが開催された。

第5回目となる今回は、口腔病態外科学講座の菅原圭亮准教授による「抜歯について学ぶセミナー」と題した動画視聴のセミナーであった。講演では、具体的に伝達麻酔における注射器の入射角度や注意事項、抜歯のための器具とその使用方法、レントゲンから考える抜歯方法、下顎埋伏歯抜歯の難易度の見極めなどについてお話をいただいた。最後に「上手に処置ができずに失敗したとしても、どのようにリカバリーをするかが重要である」と話をまとめられた。

集まった研修歯科医や臨床研修主任指導者は熱心に講演に耳を傾けていた。



▲動画視聴セミナーの様子

第4回入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

2024年9月28日（土）午後2時より、水道橋校舎新館において、本学への入学を希望する受験生を対象とした入試ガイダンス・オープンキャンパスが開催された。

受験生や保護者に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、2025年度入学試験の概要などについて説明を行い、各入試科目の入学選考で出題される同等レベルの例題を提示したうえで問題の解説を行った。

また、クラウンブリッジ補綴学講座の関根秀志教授による「補綴歯科診療のデジタル化」と題した模擬授業が行われた。さらにElective Study Programに参加した学生の報告も行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。その後、希望者を対象として水道橋病院、さいかち坂校舎、水道橋校舎新館の見学や、教務部・学生部の教職員との個別進学相談を行い、充実した第4回開催となった。



▲模擬授業をする関根教授

2024年度第3学年学外セミナー開催

2024年9月25日（水）と26日（木）の2日間、かずさアカデミアパーク（千葉県）において、2024年度第3学年学外セミナーが開催された。本セミナーは「歯科大学生としての学修の心構え」、「How to learn, how to study」、「キャリアパス形成」の3点を目的としている。

1日目は、かずさアカデミアパークに到着後、午前11時から開講式、田口円裕教授による「キャリアパス形成について①」の講演が行われた。昼食後からは「これから学ぶ臨床系科目の概略説明」が上田貴之教授より行われた。説明後、阿部伸一教務部長より「グループ討議の概要説明」があり、午後1時25分から1回目のグループ討議を行った。最終日に行われる発表会では、各グループがあらゆる分野に対する臨床系科目を学ぶための方略を発表する。その準備としてグループ討議の時間に情報収集をし、立論スピーチの作成や質疑応答を行っていく。午後5時30分からは、本学卒業生の

開業医である衣松高志先生による「キャリアパス形成について②」の講演が行われた。講演後、午後6時10分から夕食をとった。夕食ではマナー講師によるテーブルマナー講習が実施され、各グループでチューターの教員を囲み、和やかな時間を過ごした。夕食後は午後9時まで2回目のグループ討議を行った。

2日目は、朝食後の午前9時より3回目のグループ討議を行い、発表に向けてチューターの指導を受けながら活発な討議が進められた。昼食後の午後0時20分より発表が行われた。どのグループも多くの討議を重ねることで作り上げた学びの方略を、視覚的にわかりやすくするなど工夫を凝らしたスライドで発表を行った。

発表後、山本 仁副学長よりグループ発表の講評が行われた。閉講式を終えた後、バスにて水道橋校舎新館に戻り、2日間にわたる学外セミナーの全日程を無事に終了した。



▲衣松先生による講演の様子



▲テーブルマナー講習の様子



◀グループ発表の様子

■ 歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンライン・テスト実施

2024年10月4日（金）と5日（土）の2日間、水道橋校舎本館において、歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンライン・テストが実施された。教員オンライン・テストは、教育職員が歯科医師国家試験問題などを理解することにより、幅広い分野の出題傾向や状況を把握し、学生の教育指導に資することを目的としている。

当日は阿部伸一教務部長より実施概要の説明が行われた後、参加者はコンピュータを使ったCBT形式のテストを受験した。

▶実施概要の説明をする阿部教務部長



■ 第318回東京歯科大学学会（総会）開催

2024年10月19日（土）と20日（日）の2日間、水道橋校舎新館において、第318回東京歯科大学学会（総会）が開催された。

1日目は、午前9時から第1・第2講義室において一般口演14題の発表と、第3実習講義室にて7題の示説揭示が行われた。午前11時30分からは、第2講義室にて「令和6年度東京歯科大学学会評議員会・総会」が開催された。この中で、東京歯科大学学会会則により、歯内療法学講座の古澤成博客員教授、生化学講座の東俊文前教授が名誉会員に推薦されることが報告された。午後1時から血脇記念ホールを会場と

して、東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）共催シンポジウム「味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善－「味」の科学が拓くウェルビーイング社会－」が開催された。

2日目は、午前9時から第1・第2講義室にて一般口演13題の発表と、第3実習講義室にて7題の示説発表・討論が行われた。午後1時からは血脇記念ホールにて、今年度末に定年を迎えられる4名の教授による特別講演が行われた。

なお、1日目、2日目ともに7商社の参加による商品展示が第3実習講義室内で行われた。

1. 英語Ⅱ（1年生対象）の授業における4年間の拙い実践から……………今井肇教授（語学研究室）
2. 歯科診療報酬改定を紐解く……………鳥山佳則教授（短期大学学長）
3. 歯肉縁下マイクロバイオームにおけるディスバイオーシスと細菌間相互作用……………石原和幸教授（微生物学講座）
4. 主機能部位の観点から欠損歯列を考える……………山下秀一郎教授（パーシャルデンチャー補綴学講座）

▲特別講演の演題と演者



▲講演する今井教授



▲講演する鳥山教授



▲講演する石原教授



▲講演する山下教授

東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）共催シンポジウム開催

2024年10月19日（土）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにて開催された第318回東京歯科大学学会において、東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）共催シンポジウムが開催された。本研究プロジェクトでは、関連分野の有識者による共催シンポジウムを行うことで、口腔機能維持・改善に関連する最先端の基礎的・臨床的な知識を学ぶ機会を設け、プロジェクトのさらなる活性化を図っている。

今回のタイトルは「味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善—「味」の科学が拓くウェルビーイング社会—」である。味覚は、食の楽しみによる心の豊かさをもたらすことはもとより、生命維持に関わる摂食嚥下機能に関与する重要な機能である。したがって、生涯にわたる正常な味覚機能の維

持は口腔からのウェルビーイング社会の実現に極めて重要なテーマである。そこで本シンポジウムでは、味覚機能のメカニズムを基礎および臨床研究の観点から紐解き、その理解を深めることを目的として、本領域のエキスパートによる講演が行われた。片倉 朗副学長による総合司会のもと、生理学講座の澁川義幸教授と歯科放射線学講座の後藤多津子教授が座長を担当された。一戸達也学長による開会の辞の後、下記の先生方からご講演いただき、活発な質疑応答が繰り広げられた。講演後、山本 仁副学長による閉会の辞で締めくくられた。

参加者100名以上（会場とオンラインの合計）と大盛況であり、本研究プロジェクトのさらなる躍進が期待できる有意義なシンポジウムとなった。

1. イントロダクション—味覚とは何か？ ……澁川義幸教授（東京歯科大学生理学講座）
2. 高齢者におけるうま味感受性維持の重要性 ……佐藤しづ子助教（東北大学病院総合歯科診療部／口腔内科リエゾンセンター副センター長／東北大学大学院歯学研究科口腔病態マネジメント歯学講座助教）
3. 脂肪味の発見から栄養センシングと健康のつながりを考える ……安松啓子教授（東京歯科大学短期大学）
4. 味覚刺激により生じる快感と嫌悪感を担うマウス脳の神経細胞 ……田中大介講師（東京科学大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学分野）
5. 医科-歯科連携を活かした「美味しい」減塩・オーラルフレイル対策 ……水田栄之助部長（山陰労災病院循環器内科）
6. 塩味の分子細胞メカニズム ……樽野陽幸教授（京都府立医科大学大学院医学研究科細胞生理学）

▲講演の演題と演者

2024年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

2024年10月24日（木）午後6時より、オンラインにて、2024年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「医療従事者が注意すべきウイルス感染症と健康管理について」と題して、内科科長の山岸由幸准教授による講演が行われた。

講演では、ウイルス感染の解説にはじまり、感染予防方法、新型コロナウイルスやインフルエンザの概要、症状、診断、流行、予防などについて説明された。続いてノロウイル

スなどの感染性腸炎、4種抗体ウイルスについて説明された。次に健康管理として、健康診断時の判定をしっかりと確認すること、がん検診を受診することについて説明された。最後に職員のメンタルヘルスについて、「気軽に相談していただきたい」と説明された。

今回の研修会は、注意すべきウイルス感染症と健康管理について、教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

■ 第216回歯科医学教育セミナー開催

2024年10月31日（木）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第216回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、立教大学人工知能科学研究科の瀧 雅人先生から「AIの現状と今後の可能性」と題した講演が行われた。

はじめに、AIを作るための手法である機械学習や深層学習についての説明があり、それを踏まえてAIでできること、できないことについて話された。また、AIによる歯学分野での応用など今後の可能性についても言及された。

AIという世界でも今注目を集めているテーマを取り扱っていることもあり、質疑応答も盛んに行われ、大変有意義なセミナーとなった。



▲講演する瀧先生

■ 第5回入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

2024年11月2日（土）午後2時より、水道橋校舎本館において、本学への入学を希望する受験生を対象とした第5回入試ガイダンス・オープンキャンパスが開催された。昨年に引き続き東歯祭と同日に開催したこともあり、東歯祭のあらゆる催しを体験した受験生や保護者が参加した。

参加者に対して、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、2025年度入学試験の概要などについて説明を行い、学部生によるElective Study Programの報告も行われた。最後に各入試科目において高校での学習のポイントや入学までに身につけていて欲しいことを説明した。その後、希望者を対象として第5学年生の案内による解剖標本室、水道橋病院の見学会や、教務部・学生部の教職員との個別進学相談を行い、充実した第5回開催となった。



▲Elective Study Programの報告をする学生の様子

2024年度解剖諸霊位供養法会執行

2024年11月6日（水）午後2時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2024年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。解剖諸霊位供養法会には、ご逝去された故人様のご遺族と大学幹部、短期大学幹部、大学関係者、東京歯科大学白菊会会長、歯学部第2学年学生が参列した。

本学開設以来、歯科医学教育と研究のため、尊いご遺志を持って献体いただいた4千有余柱の諸霊位に対し、深く感謝の意を捧げご冥福をお祈りした。また、真珠院導師により誦経

が行われ、一戸達也学長が祭文を奉読したのち参列者による献花が行われた。続いて学生を代表して第2学年の原田百菜さんより挨拶があり、次にご遺族を代表して佐々木夢路様よりご挨拶をいただき、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が真珠院（文京区）へ墓参し散会となった。



▲解剖慰霊祭の様子



▲祭文を奉読する一戸学長



▲学生代表による献花



▲挨拶する原田さん



▲白菊会会長福田由里様による献花



▲挨拶されるご遺族代表の佐々木様

■ 第501回大学院セミナー開催

2024年7月9日（火）午後6時から、水道橋校舎本館第2講義室において、第501回大学院セミナー（キャリアアップシリーズ：基礎系）がウェルビーイングプロジェクトとの共催で開催された。演者は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科細胞生物学分野准教授の松下祐樹先生で、「歯科医師が研究することで広がる無限の可能性と臨床への貢献」と題してご講演いただいた。

松下先生は2007年に東京医科歯科大学（現東京科学大学）歯学部を卒業され、2013年に同大学院を修了された。専攻は顎顔面外科学で、口腔病理学分野の山口 朗教授の指導のもと骨再生に関して研究された。その後、長崎大学の口腔腫瘍治療学分野の助教として2年間臨床を行われた。松下先生は、口腔外科臨床で救うことができない患者に直面し臨床の限界を根本的に解決するための研究の重要性を感じてい

た頃、ミシガン大学歯学部の小野法明先生（2003年東京医科歯科大学（同）歯学部卒）の研究室で研究を行う機会を得、その後テキサス大学歯学部も含めて7年間、小野研究室にて濃密な研究生生活を過ごし、間葉系幹細胞から骨芽細胞への分化に関して世界をリードする研究業績を発表された。2022年からは長崎大学にて基礎系教員として活躍されている。

本講演では、臨床医から多様な経験を経て基礎系研究者になられた松下先生の経緯も含めて、研究に対する真摯な姿勢とすばらしい研究成果をお話ししていただいた。松下先生は現在、世界でまだ誰も知らないことを新たに発見する喜びを感じながら毎日を過ごされているとのことで、これから育っていく優れた若手研究者の熱い意気込みを感じることができたセミナーであった。

第5学年石坂大昂さんがThe 3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Studentsに参加

2024年10月13日（日）から18日（金）の6日間、第5学年の石坂大昂さんが、クラウンブリッジ補綴学講座の四ツ谷 護講師引率のもと、本学の姉妹校である中国・西安市の空軍軍医大学第三付属医院（AFMU）が主催するThe 3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Studentsに本学学生代表として参加した。現地では、本学の薬師寺 仁名誉教授と小児歯科学講座の王 小競客員教授に帯同いただいた。

AFMU訪問では、牛 麗娜院長をはじめする大学幹部の歓迎セレモニーがあり、その後、AFMUの教育施設および研究施設の見学を行った。続いて、AFMUの趙 鈇民教授が監修し設立した国際口腔医学博物館の見学を行った。Silk Road Cupを運営するAMFUの教職員とも交流を深めながら、AFMUの診療室を中心に見学も行った。

International Clinical Skills Exchange EventはXi'an Qujiang Convention and Exhibition Centerにて開催された。参加校は中国国内の30大学と海外招待の4大学（日本、スリランカ、スペイン、香港）であった。技能課題は、「支台歯形成」「ラバーダム下インレー窩洞形成」「口腔内での切開・縫合」をそれぞれ25分で、「AEDを用いた心肺蘇生法」を8分で実施するものであった。前日打ち合わせには日本語で対応できるスタッフもおり、設置器具の使用方法について念入りに確認することができたため、石坂さんも戸惑うことなく技能課題に集中することができた。最後に海外招待校参加者全員にBest Performance Awardが授与された。

このような学生のための海外学術交流は、歯科医療に必須の技能教育を考える上で非常に有意義なイベントであった。



▲AFMU大学幹部の先生方からの歓迎セレモニーの様子



▲挨拶をする四ツ谷講師



▲コンペティションの様子を伺う薬師寺名誉教授



▲AFMUにて趙鈇民教授（中央左）と薬師寺名誉教授（中央右）と一緒に

"Silk Road Cup" 参加報告

第5学年 石坂大昂

この度、2024年10月13日(日)から18日(金)の6日間、本学の姉妹校である空軍軍医学大学第三付属医院(AFMU)が主催するThe 3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Studentsに参加するため、中国・西安市を訪問いたしました。技能コンペティションということで、代表選抜の通知をいただいた時から不安はありましたが、大会までの期間で各講座の先生方からご指導いただき、自信を持って中国へ渡航することができました。

● 1日目—歓迎の夕食会に参加—

現地に到着すると、AFMU小児歯科学講座の王 小競客員教授と講座の先生方が歓迎してくださり、夕食をご一緒させていただきました。最初はとても緊張しておりましたが、先生方は学生の私にもとても親切に接してくださり、初日にして安心して学術交流に参加できると確信しました。

● 2日目—最新設備に圧倒されたAFMUの施設見学—

2日目より本学の薬師寺 仁名誉教授と合流し、AFMUを訪問しました。午前中に大学に到着すると、牛 麗娜院長をはじめ大学幹部の先生方の歓迎セレモニーがあり、姉妹校として我々を歓迎してくださいました。その後、海外交流研修で訪問されていた朝日大学と明海大学の学生と一緒にAFMUの施設見学を行いました。

大学施設の案内は、AFMUの修士1年生が行ってくださいました。中国の歯学教育について尋ねると、歯学部は5年間で、その後に修士課程3年間で義務づけられており、実質8年間というシステムになっているそうです。そして5年生時には自分の患者を持ち診療されているそうです。それを聞き、同じ歯科医師を目指す者として「自分ももっと頑張らねばならない」と思うと同時に、尊敬の念も抱きました。

案内いただいた広大な施設内には、支台歯形成や窩洞形成の練習シミュレータが15台ほど置かれたシミュレーション室や、各ユニットにマイクロスコープが搭載された基礎実習室がありました。基礎実習室内には、模型のスキナーも数台設置されており、自分が形成した顎模型を評価することが可能になっているようで、技能学習には恵まれている環境だと感じました。

その後、AFMUの趙 鉞民教授が監修し設立した国際口腔医学博物館を見学しました。博物館の前半は、本学水道橋校舎本館にある標本室のようなさまざまな動物の顎骨や歯が展示されており、人類の進化の過程として頭蓋骨を並べて展示してあるコーナーもありました。後半では、歯学の発展を過去からの時系列で展示されていました。日本の江戸時代における義歯や診療道具から、現代に至る最新機器まで展示されており、歯学の歴史そのものが集約されたものでした。

午後は研究室見学を行いました。中でも驚いたのは、完全自動のインプラント埋入システムです。注水した水を集めるトレーと一体型のサージカルガイドを事前に製作し、実際にドリリングしている位置や深さをリアルタイムでCT画像上に表示しながら行われるものでした。すでに実際の診療にて使用されているということで、機械の精密さに非常に驚きました。

材料学や生物学系研究室の見学では、大規模なセンターの4階すべてが各講座の研究室になっており、その広さと規模感に圧倒されました。また、廊下などに多数の論文が掲載されており、研究の量にも驚きました。中国では学生も卒業までに論文を書くということで、研究意欲にも差を感じました。

この日の夕食は、朝日大学・明海大学の学生と一緒に、



▲マイクロスコープが設置された基礎実習室の様子



▲国際口腔医学博物館の展示の様子

AFMUの大学幹部の先生方との食事会にご招待いただきました。また、牛院長から直接Silk Road Cupへの激励のお言葉をいただき、感銘を受けました。

● 3日目―刺激を受けたプレゼンテーションとAFMUの外来見学、そして大会会場でのリハーサル―

3日目の午前中は修士課生の自己プレゼンテーションを拝聴し、実際にAFMUの外来を見学しました。

プレゼンテーションは皆さん英語が流暢で、またそれぞれが研究されている内容も歯髄再生治療など最先端のもので、英語力や研究レベルの高さに驚きました。

矯正歯科では光学印象に加え、顔貌を複数のカメラで一

度に撮影することで、コンピュータ上に瞬時に顔貌形態3Dデータを作成するものがあり、治療効果の判断に有用なシステムであると感じました。また、矯正科や補綴科などAFMUでは石膏模型を基本的に製作せず、光学印象もしくは機能印象を行った印象体をスキャンして3Dデータ上で補綴装置の製作を行っていました。保存科では、歯内治療だけでなくほとんどすべてのキュービックにマイクロスコープが搭載されており、歯周外科治療などの際にも使用するそうです。また、自動計測を行う歯周組織検査機器もあり、さまざまな面で治療がデジタルによって標準化されるように進歩していると感じました。

午後は、西安曲江コンベンションセンターに移動し、明



▲2日目に行われた東京歯科大学・朝日大学・明海大学・AFMUの日中交流会の様子



▲大会会場での石坂さん（左）と四ツ谷講師



▲技能課題（口腔内縫合）の実施中の様子



▲Best Performance Awardを受賞した石坂さん（中央）



▲開会式壇上にて（左から）石坂さん、王客員教授、薬師寺名誉教授、四ツ谷講師



▲参加者全員による記念撮影

日開催のSilk Road Cup会場の下見およびテストプレイを行いました。多少器具や手技の違いはありましたが、日本語で対応できる学生スタッフがおり、設置器具の使用方法や評価点について説明していただきました。もっとも驚いたのは、CPRのマネキンが胸骨圧迫のテンポ・深さ、人工呼吸の換気量などを自動計測で採点するということです。現地学生に尋ねたところ、AFMUだけでなく中国すべての歯学部で同じ機材を用いて実習されているとのこと、教育費用の充実ぶりを感じました。

● 4日目—実力を発揮できたSilk Road Cup—

4日目は、いよいよSilk Road Cup本番です。Silk Road学会は、学生技能コンペティションだけでなく、多数の講演や歯科用器材の販売なども行う、数日間にわたる大規模なものでした。とても緊張しましたが、隣の中国学生がフランクに話しかけてくださり、スピーチも小声で英語通訳してくれるため、特に問題なく動くことができました。

肝心の課題も、いざスタートすると緊張も解け、練習どおりに自分の満足のいく結果を残すことができました。終了後には他の海外組の学生とも会話する機会があり、「スペインでは現在メタルインレーはほぼ使わないからはじめてだった」など、海外での実習内容の違いも知ることができました。

閉会式では、海外招待校全員にBest Performance Awardを授与していただきました。また競技終了後に、王客員教授より「評価委員の先生が日本学生を高評価していた」とお聞きし、「本学の先生方のご指導に答え、代表の役目は果たせたかな」と安堵いたしました。

● 5日目—西安観光でリフレッシュ—

5日目は丸一日、西安観光をしました。まず華清池を訪れました。華清池は玄宗皇帝が楊貴妃のために造営した離宮です。この日は雨でしたが、それによる霧のお陰で一層



▲兵馬俑観光の様子

幻想的な景色を楽しむことができました。

次は西安の観光名所第1位である始皇帝のために造営された兵馬俑を訪れました。私は、某中華統一系少年漫画の大ファンでしたので、この日を待ち望んでおりました。実際に目の当たりにすると、どこまでも続く兵士俑の数と、今にも動き出しそうな完成度に圧倒されました。

観光中は中国学生や朝日大学・明海大学の学生がフレンドリーに接して下さり、とても充実した1日を過ごすことができました。

● 6日目—決意を新たにした6日間—

6日目の最終日、日本へ帰国しました。当日の早朝にはお世話になった先生方がホテルロビーにお見送りに来てくださり、最後にお話しすることができました。滞在中は、王客員教授をはじめAFMUの方々には最高のおもてなしをいただき、感謝してもしきれない程でした。心より御礼申し上げます。

今回頂戴した海外学術交流の機会は、自分のスキルを高めるきっかけになっただけでなく、中国や他の国々との技能教育内容や環境の違いを学ぶことができた貴重なものでした。また、最先端の歯科医療技術や、現地の学生の研究意欲の高さに刺激を受け、世界へと通じる歯科医師としてのモチベーションが著しく向上しました。この経験が歯科医師として成長していく礎となるように、さらに一層の努力と大きな目標を胸に進んで行こうと思います。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださった一戸達也学長、新谷誠康国際交流部長ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。加えて、引率や技能指導をくださった薬師寺名誉教授、小鹿恭太郎准教授、四ツ谷 護講師、小山 侑助教、岩澤弘樹助教をはじめ、関係各所の方々に重ねて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



▲最終日の早朝見送りに来てくださった先生方と一緒に

三邊正樹助教、上野紗璃大学院生 第37回日本口腔診断学会、第34回日本口腔内科学会合同学術大会にて大会長賞を受賞

2024年9月27日（金）から29日（日）の3日間、松本歯科大学（松本市）において開催された第37回日本口腔診断学会、第34回日本口腔内科学会合同学術大会にて、口腔腫瘍外科学講座の三邊正樹助教が口演発表で、上野紗璃大学院生がポスター発表で大会長賞を受賞した。受賞演題はそれぞれ、「口腔扁平苔癬の原因検索として行ったパッチテストの結果と金属除去の有効性の後方視的検討」、「東京歯科大学市川総合病院における金属パッチテストの結果と金属除去の有効性の後方視的検討」である。

近年金属アレルギーが原因の一つと報告されてきた疾患とパッチテストの結果との因果関係に疑問が持たれているという背景より、過去6年間に市川総合病院で施行した金属パッチテストの結果と金属除去後の経過、また口腔扁平苔癬で歯科金属除去を行い症状が改善した症例について後方視的に検討を行い、金属除去の有効性について報告した。パッチテスト陽性歯科金属の除去は、金属除去を第一選択とせず、他の治療を行った上でも症状の改善に乏しい場合、患者に十分な



▲受賞した三邊助教（左）と上野大学院生（右）、口腔腫瘍外科学講座の野村武史主任教授

説明を行った上で、症例を限定して行うと有効性が高いと考えられた。

千代侑香ポストドクトラル・フェロー 第52回日本歯科麻酔学会総会・学術集会にて最優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）を受賞

2024年10月25日（金）から27日（日）の3日間、朱鷺メッセ（新潟市）において開催された第52回日本歯科麻酔学会総会・学術集会にて、口腔科学研究センターの千代侑香ポストドクトラル・フェロー（歯科麻酔学講座非常勤）が最優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）を受賞した。この賞は本学会賛助会員であるデンツプライシロナ株式会社のご厚意によって設置された賞で、本学会学術集会の一般演題のうち特に優秀な研究発表を表彰し、研究発表の活性化が賛助会員の商品開発の大きな力となることを期待する表彰制度である。受賞演題は「T細胞依存的な炎症応答におけるトランスロケータプロテイン（TSPO）の機能解析」であった。

本研究は、末梢型ベンゾジアゼピンとしても知られているTSPOのT細胞応答における機能について、T細胞依存的な炎症疾患モデルである接触型過敏症モデルへのTSPOリガンドの投与効果から明らかにすることを目的とした内容である。本研究結果から、接触型過敏症モデルではTSPOはT細胞活性化におけるエネルギー代謝を調節して、その病態を制御していることが示唆された。これらの成果はT細胞上のTSPOを標的とした新たな免疫関連疾患の治療戦略への展開につながるものとなると考えられる。今後のさらなる調査・解明が期待される。



◀受賞した千代ポストドクトラル・フェロー（中央）と一戸達也学長（左）、口腔科学研究センターの大野建州准教授

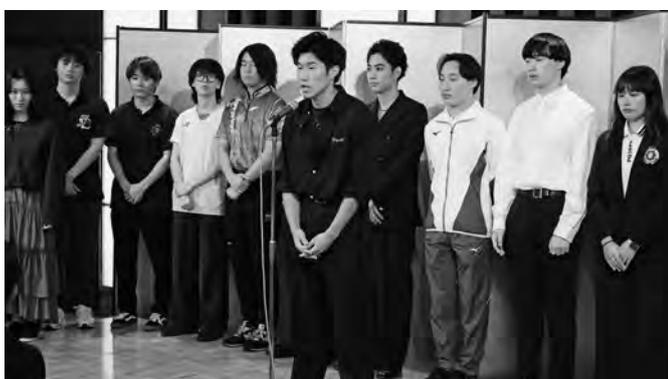
第56回歯学体成績報告会・東歯祭中夜祭開催

2024年11月2日（土）午後6時より、ホテルメトロポリタンエドモント（東京都）において、第56回歯学体成績報告会および東歯祭中夜祭が開催された。1日目を終えた東歯祭の中間報告、歯学体総合成績報告のほか、参加主将からクラブごとの成績について報告が行われた。

一戸達也学長による挨拶に始まり、富山雅史同窓会長、吉村浩一父兄会長、そして株式会社モリタ東日本管掌取締役の高木一成様からご祝辞を賜り、各賞が授与された。



▲挨拶する一戸学長



▲総合優勝した硬式庭球部主将の吉川和秀さん（第4学年）による成績報告



▲総合優勝した剣道部主将の須澤透真さん（第4学年）による成績報告



▲野村伊吹歯学体評議委員（第3学年）による歯学体報告



▲一戸学長より賞状が手渡される総合6位ゴルフ部主将の黒沼凜香さん（第4学年）



▲須佐美昂太東歯祭実行委員長（第4学年）から開催中間報告



▲切磋琢磨した瞬間を振り返る

■ 本学教員著書について



奥田克爾・著
あなたに潜むサイレントキラー：病魔に打ち勝つライフスタイル
 講談社エディトリアル，2024

2003年のギネスブックに「史上最大の感染症は歯周病である」ことが書かれています。また、8020運動は“健康日本21”の後押しもあり、オーラルヘルスを国民に広く浸透させてきました。しかしながら、歯周病の減少に歯止めがかかっていません。歯周病原菌は循環障害、糖尿病、関節リウマチ、大腸がん、アルツハイマー病などを誘発し、インフルエンザや新型コロナウイルス感染に加担する人類史上最大の病魔となって、虎視眈々と命さえ奪うことを、わかりやすい図を組み入れて説明しています。（奥田克爾・名誉教授）

図書館では本学教員が執筆した著書(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限る)については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、ご一報ください。

■ 認知症に関する普及啓発活動に伴う図書展示

2024年9月、水道橋校舎本館図書館において、認知症をテーマとして、認知症患者における歯科治療の注意点を記した図書や一般的な認知症に関する図書、パンフレットなどの展示を実施した。期間中、閲覧はもちろん図書の貸出もあり、認知症への理解を深める大変有意義なものとなった。

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」である。本展示は千代田区が認知症普及啓発の取り組みの一環として実施している「ちよだはあとブックス」との協同事業として行ったものである。



▲展示の様子

■ 卒業アルバム寄贈のお願い

図書館では東京歯科大学とその前身である東京歯科医学専門学校時代からの卒業アルバムを所蔵しています。一部、未所蔵の年次がありますので、お持ちの方は寄贈をご検討ください。卒業アルバムは水道橋校舎新館図書館にて利用可能(館内閲覧限定)です。

所蔵している卒業アルバムは図書館ホームページから確認できます。

図書館ホームページ➡左メニュー「資料を探す」➡「学位論文/卒業論文/卒業アルバム」

【未所蔵の年次】

第74回 1969(昭和44)年 3月卒(福祉会)	第44回 1939(昭和14)年 3月卒(天心会)
第59回 1954(昭和29)年 3月卒(二期会)	第31回 1926(大正15・昭和元)年3月卒(壬戌会)
第56回 1951(昭和26)年 3月卒(いそむ会)	第30回 1925(大正14)年 3月卒(十年会)
第49回 1943(昭和18)年 9月卒(二六会)	第16回 1910(明治43)年11月卒
第47回 1941(昭和16)年12月卒(堅久会)	第15回 1909(明治42)年12月卒

2024年度東京歯科大学短期大学 第3回オープンキャンパス・入試説明会開催

2024年8月10日（土）、水道橋校舎本館A教室とB教室において、2025年度短期大学への入学希望者を対象とした第3回オープンキャンパス・入試説明会が開催された。受験希望者と保護者を合わせた参加者は、歯科衛生学科希望者146名、専攻科希望者41名であった。

歯科衛生学科入学希望者を集めたA教室では、鳥山佳則学長の挨拶の後、菅野亜紀教務部長より短期大学の特徴、特に臨床・臨地実習に関する説明、小林友忠事務部長より学生募集要項、入学試験についての説明が行われた。休憩をはさみ、総合型選抜試験対策として、古澤成博学生部長による模擬授業を聴講して例題に解答する形式で入学試験の体験が行われた。参加者は緊張した面持ちで一生懸命聴講し、例題に取り組んでいた。続いて実際の学生生活などを理解しやすくする試みとして、卒業生、在校生による座談会がシンポジウム形式で行われた。3年間の在学中の話、専攻科への進学について考えたこと、卒業後歯科衛生士としてどのように過ごしているかなど、本学での学修を経験した者だからこそその声を参加者に伝えた。参加者も目を輝かせて熱心に聞き入って

いた。その後、短期大学教員や専攻科生、専攻科卒業生と共に小グループに分かれて、水道橋校舎本館短期大学実験室および教室、水道橋病院診療室、水道橋校舎本館西棟短期大学実習室のルートで施設見学を行った。途中の実習室、実験室や診療室に、短期大学教員および短期大学学生を配置し、適宜説明が行われた。施設見学終了後に、水道橋校舎本館西棟ラウンジにおいて、希望者に対して個別相談が行われた。相談内容は、入学試験、学生生活、専攻科への進学、学費・奨学金、授業内容、就職先などの多岐にわたり、教職員および卒業生、専攻科生、短期大学学生が対応にあたった。

また、専攻科入学受験希望者を集めたB教室では、鳥山学長の挨拶から始まり、安松啓子研究部長より学位授与機構について、専攻科の概要、入学試験について説明が行われた。休憩をはさみ、専攻科卒業生からのアドバイスとして質問応答の形で交流会が行われた。最後に専攻科における臨床実習について永井由美子学生副部長より説明が行われた。また、希望者には学内施設見学が行われた。



▲水道橋校舎本館西棟ラウンジで希望者に対して行われた個別相談の様子



▲専攻科修了者によるシンポジウムを聴講する参加者

2024年度東京歯科大学短期大学第2学年（第7期生） 臨床・臨地実習開始式挙行

2024年10月1日（火）午前10時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第2学年（第7期生）46名の臨床・臨地実習開始式が挙行された。古澤成博学生部長の司会のもと、鳥山佳則短期大学学長による訓辞に続き、山下秀一郎水道橋病院長、松浦信幸市川総合病院短期大学教育担当、

片倉 朗千葉歯科医療センター長による挨拶を賜り、次いで臨床・臨地実習生を代表して木村瑠海さんが誓詞を述べた。

臨床・臨地実習生は入学後1年半における講義、基礎実習で獲得した学修成果をさらに深めるべく、緊張の面持ちで式に臨み、決意を新たにしていた。



▲誓詞を述べる臨床・臨地実習生代表の木村さん



▲臨床・臨地実習開始式の集合写真

卒業研究発表報告会開催

2024年10月4日（金）午前9時40分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、短期大学歯科衛生学科第3学年（第6期生）53名による卒業研究発表会が開催された。

卒業研究は第2学年の9月頃より本格的に開始され、歯科衛生士として日進月歩の歯科医療に的確に対応できるよう、広い視野を持ちながら研究マインドを培うことを目的として行われている。会場には、第1学年、第2学年および専攻科生の学生のみならず、論文指導にあたった指導教員など、多くの関係者が参集した。研究発表は学会形式をとり、受付、座長、タイムキーパーなどの役割をすべて第3学年の学生が受け持ち運営を行った。

古澤成博学生部長進行のもと、鳥山佳則短期大学学長による開会の挨拶から始まり、各学生による研究成果の発表がス

ライドを用いた4分間の口頭発表と2分間の質疑応答で進行された。学生たちは血脇記念ホールの壇上での報告に、緊張の中にも各自が今まで行ってきた研究成果を懸命に発表、報告していた。研究テーマは基礎から臨床まで幅広い分野にわたり、それぞれがとても興味深い内容であった。また質疑応答では、各学年の学生からも研究内容の核心に踏み込んだ多くの質問が出され、活発な討議がなされた。

本研究成果は、学生一人一人の努力と、東京歯科大学および短期大学の指導教員による長時間にわたる親身な指導が結集した結果として、卒業研究論文集としてまとめられた。研究発表報告会は終日にわたって行われ、安松啓子短期大学研究部長の総評をもって盛会裡に閉会した。



▲卒業研究発表報告会の様子



▲卒業研究報告発表会を終えての集合写真

国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

■旭川歯科学院専門学校

対象日：2024年11月14日(木)10:00~11:00

見学施設：標本室

見学者：39名(引率者3名)

■学校法人栗原学園 オホーツク社会福祉専門学校

対象日：2024年11月14日15:00~17:00

見学施設：標本室

見学者：9名(引率者2名)

市川総合病院

■Cicendo Eye Hospital(インドネシア)

対象日：2024年9月9日(月)~2024年9月17日(火)

見学施設：外来、病棟、手術室、角膜センター

見学者：看護師1名、検眼士1名

■市立稚内病院

対象日：2024年10月10日(木)

見学施設：第二部手術室、外来、角膜センター

見学者：眼科医1名

海外出張

水道橋校舎・水道橋病院

■ビッセン弘子特任教授(水病・眼科)

The 42th European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS)での発表のため、9月4日(水)から9月16日(月)までスペイン・バルセロナへ出張。

■太田友香准教授、谷口紗織非常勤講師(水病・眼科)

The 42th European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS)での発表のため、9月5日(木)から9月12日(木)までスペイン・バルセロナへ出張。

■南慶一郎非常勤講師(水病・眼科)

The 42th European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS)での発表のため、9月6日(金)から9月11日(水)までスペイン・バルセロナへ出張。

■後藤多津子教授(歯科放射線学)

Methodological Issues in Oral Health Research および 2024 IADR Continental European Division・IADR Scandinavian Division Congressへの参加・発表のため、9月7日(土)から9月16日(月)までスイス・ジュネーブ、ベルンへ出張。

■小林 裕助教、浅井七海大学院生(パーシャルデンチャー補綴)

CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Reserch Congressへの参加、発表及びハイデルベルク大学及びインスブルック医科大学での研究打ち合わせのため、9月8日(日)から9月18日(水)までドイツ・ハイデルベルク、スイス・ジュネーブ、オーストリア・インスブルックへ出張。

■上田貴之教授、竜 正大准教授、太田 緑講師、

田中 希大学院生(老年歯科補綴)

CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Reserch Congressへの参加、発表及びジュネーブ大学との共同研究打ち合わせのため、9月9日(月)から9月16日(月)までスイス・ジュネーブへ出張。

■松坂賢一教授(病理)

CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Reserch Congressへの参加、発表のため、9月10日(火)から9月16日(月)までスイス・ジュネーブへ出張。

■倉持 仁大学院生、番場桃子大学院生(歯内療法)

CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Reserch Congressへの参加、発表のため、9月11日(水)から9月16日(月)までスイス・ジュネーブへ出張。

■菅原圭亮准教授(口腔病態外科)

27th European Association of CranioMaxillofacial Surgery Congressへの参加・発表及びMarburg大学での研究打ち合わせのため、9月15日(日)から9月25日(水)までイタリア・ローマ、ドイツ・フランクフルトへ出張。

■星野照秀助教(口腔病態外科)

The 2nd Next Generation Symposium of the Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeonsへの参加・発表のため、10月4日(金)から10月6日(日)まで韓国・ソウルへ出張。

■上田貴之教授(老年歯科補綴)

第10回アジア・フレイル・サルコペニア学会への参加・発表のため、10月8日(火)から10月12日(土)までタイ・バンコクへ出張。

■服部雅之教授(歯科理工)

2024年ISO/TC106年次会議への出席のため、10月10日(木)から10月18日(金)までアメリカ合衆国・ニューオーリンズへ出張。

■四ツ谷 護講師(クラウンブリッジ補綴)

The 3rd Silk Road Cup International Clinical Skills Exchange Event for Dental Studentsにおける学生引率のため、10月13日(日)から10月18日(金)まで中国・西安へ出張。

■櫻井敦朗講師(小児歯科)

アジア小児歯科学会大会への出席および発表、日本小児歯科学会と各国小児歯科学会の学術交流のため、10月29日(火)から11月2日(土)までタイ・バンコクへ出張。

■渡辺麻衣子大学院生(小児歯科)

アジア小児歯科学会大会への出席および発表のため、10月29日(火)から11月4日(月)までタイ・バンコクへ出張。

■棚瀬稔貴助教(小児歯科)

アジア小児歯科学会大会への出席および発表のため、10月30日(水)から11月3日(日)までタイ・バンコクへ出張。

■齋藤 淳教授、今村健太郎講師、北村友里恵助教、

森 心汰大学院生、銅治賢吾大学院生(歯周病)

American Academy of Periodontology 110th Annual Meetingへの参加・発表のため、10月30日(水)から11月5日(火)までアメリカ合衆国・サンディエゴへ出張。

■西井 康教授、立木千恵講師、西村達郎助教(歯科矯正)

The 63rd Congress of the Korean Association of Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgeonsへの参加・発表のため、11月7日(木)から11月9日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

市川総合病院

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

WCLC2024世界肺癌学会へ参加のため、9月4日(水)~9月12日(木)までアメリカ・サンディエゴへ出張

■片岡花音臨床専修医(眼科)

ESCRS2024へ参加のため、9月5日(木)~9月10日(火)まで、スペイン・バルセロナへ出張

■佐々木 文教授(臨床検査科)

2024 50th Annual Meeting: ISS Musculoskeletal Diagnostic Meetingに参加・発表のため、9月14日(土)~9月20日(金)まで、カナダ・イモントリオールへ出張

■穴澤卯圭教授(整形外科)

2024 50th Annual Meeting: ISS Musculoskeletal Diagnostic Meetingに参加・発表のため9月14日(土)~9月20日(金)まで、カナダ・イモントリオールへ出張

■山口剛史教授(眼科)

The Asia Cornea Societyへ参加のため9月24日(火)~9月28日(土)まで、インドネシア・ジャカルタへ出張

■片山正輝教授(脳神経外科)

WFITN 2024に参加・発表のため、10月5日(土)~10月9日(水)まで、アメリカ・ニューヨークへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

IALSC Asia Conference on Lung Cancer, Hong Kongへ参加のため、10月16日(水)~10月19日(土)まで、香港へ出張

■山口剛史教授(眼科)

American Academy of Ophthalmology 2024 Meetingへ参加のため、10月17日(木)~10月21日(月)まで、台湾・台北へ出張

■小坂橋俊哉教授(緩和ケア科)

アメリカ麻酔学会(ASA)2024へ参加のため、10月18日(金)~10月22日(火)まで、アメリカ・フィラデルフィアへ出張

■穴澤卯圭教授(整形外科)

青山 龍馬准教授(整形外科)

渡部 逸央講師(リハビリテーション科)

The 28th Meeting of The Spine of HCMC, Vietnamへ参加のため、11月6日(水)~11月11日(月)まで、ベトナム・カントーへ出張

■小坂橋俊哉教授(緩和ケア科)

韓国麻酔学会2024へ参加のため、11月7日(木)~11月10日(日)まで、韓国・インチョンへ出張

■鈴木 昌教授(救急科)

米国心臓病学会(AHA)へ参加のため 11 月 15 日(金)～11 月 20 日(水)まで、アメリカ・シカゴへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

6th International Joint Meeting へ参加のため、11 月 19 日(火)～11 月 24 日(日)まで、スペイン・バルセロナへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

PHILIPPINE ASSOCIATION OF THORACIC,CARDIAC AND VASCULAR SURGEONS,INC. へ参加のため、11 月 29 日(火)～12 月 1 日(日)まで、フィリピン・マニラへ出張

規定

東京歯科大学水道橋校舎フレックスタイム制に係る申し合わせ

(目的)

第 1 条 この申し合わせは、東京歯科大学就業規則第 23 条に規定するフレックスタイム制について定めるものである。

(適用対象者)

第 2 条 フレックスタイム制の適用対象者は、東京歯科大学水道橋校舎に所属する教育職員、レジデントとする。ただし、長期欠勤(原則として 1 か月以上)の見込みがある者および管理の職(原則として職務手当支給者)にある者は本制度の対象外とする。

(清算期間等)

第 3 条 労働時間の清算期間は 3 か月とし、1 年をⅠ期：4 月～6 月、Ⅱ期：7 月～9 月、Ⅲ期：10 月～12 月、Ⅳ期：1 月～3 月の 4 期毎に分けて清算するものとする。なお、清算期間は各期間の最初の月の暦日の 1 日から各期間の最後の月の暦日の末日までの間とする。

(業務)

第 4 条 フレックスタイム制の適用対象者は、やむを得ない理由がある場合を除き、原則として各清算期間の所定労働時間の合計時間の範囲内で業務を遂行できるように自主的・自立的に労働時間の配分と管理を行わなければならない。なお、自主的な研究および自己研鑽は、原則として実働時間として取り扱わないものとする。

(勤務報告)

第 5 条 フレックスタイム制の適用対象者は、勤務時間の実績等について、大学の定めるシステムへ入力し、所属長の承認を得るものとする。

(標準労働時間)

第 6 条 標準となる 1 日の労働時間は、教育職員は 8 時間、レジデントは 7 時間とする。
2 有給休暇および特別休暇を取得した日は、標準となる 1 日の労働時間において実働したものとして取り扱う。

(フレキシブルタイム)

第 7 条 各日の始業および終業の時刻は、業務に支障のないよう勤務することを条件として、各自の判断に委ねる。ただし、所定休日および午後 10 時から翌 5 時までの間の勤務は、所属長の個別具体的な命令又は許可によることとする。

(不足及び超過時間の取扱い)

第 8 条 清算期間中の実働時間の合計が、当該期間中の所定時間の合計を超過した時は、所定の時間外割増賃金を支給し、清算期間中に所定休日および深夜時間帯における実働があった場合は、所定の割増手当を支給する。
2 フレックスタイム制の適用対象者は、実働時間が各清算期間の所定時間に対し、著しい過不足を生じないよう努めなければならない。著しい不足については、欠勤減額を行う場合がある。
3 清算期間の途中に採用され、または退職した者については、在職期間を平均して 1 週間当たり 40 時間を超えた実働時間および休日・深夜の実働時間について、所定の時間外割増賃金および休日・深夜の割増手当を支給する。

(所定労働時間及び休日勤務の取扱い)

第 9 条 各清算期間の所定時間は、当該期間を平均して一週間当たり 40 時間を超えない範囲内で 1 日 8 時間に清算期間中の所定労働日数を乗じて得られた時間数とする。
2 所定休日および深夜時間帯に実働があった場合は所定の賃金割増分のみ、翌月に支給する。

(その他)

第 10 条 出張については、1 日の労働時間の範囲内で実働したものとみなす。ただし学外からの依頼で講義、講演等を行う場合、その対価の支払いのあるものについては、実働時間の対象外とする。

(変更・廃止)

第 11 条 この申し合わせの変更、廃止は人事委員会の承認を得なければならない。

附 則

1 この規則は、令和 7 年 1 月 1 日から施行する。

2024年9月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	日			
2	月	1～4年生授業再開	薬事委員会 市川リレーションシップカンファレンス	臨床研修管理小部会
3	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
4	水	水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	
5	木	短大教授会	腎臓病教室 プログラム委員会 感染制御委員会	診療録整備指導委員会
6	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会	再指導集中対策①	
7	土			
8	日	水病研修歯科医選考試験		2025年度臨床研修歯科医選考
9	月		総合防災訓練 医療安全管理委員会	千葉校舎衛生委員会 センター医局長会
10	火		緩和ケア委員会	
11	水	1～4年生前期授業終了 水病リスクマネジメント部会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会 ・利益相反委員会 CPC	
12	木	1～4年生前期授業予備日(～9/13) 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	収支改善委員会 患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会	
13	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	こどもサポートチーム運営会議 がん薬物療法小委員会	
14	土			
15	日			
16	月	敬老の日		
17	火	臨床教授連絡会、全体教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	
18	水	1～4年生前期定期試験(～9/26)、基礎教授連絡会 大学院運営委員会、大学院研究科委員会	虐待・DV対応委員会 褥瘡対策委員会 カルテ監査小委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会 ICU運営委員会	
19	木	水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会 ・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 衛生委員会 労務管理担当マネージャー会議 説明と同意の質向上委員会 内視鏡室委員会	医療連携講演会
20	金	第177回倫理審査委員会・第118回利益相反委員会	給食運営会議 栄養管理委員会 NSTカンファレンス	
21	土			
22	日	秋分の日		
23	月	秋分の日 振替休日		
24	火	短大教授会、衛生委員会 水病教職員研修会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会	センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 薬事委員会(メール会議)
25	水	3年生学外セミナー(～9/26) 第5回図書館事務連絡会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会	
26	木	TDCビル協議会	管理診療委員会	
27	金	第752回理事会(臨時)、第264回評議員会(臨時) 第3回図書委員会	リスクマネージャー会議 業務改善委員会	業務連絡会
28	土	5年生第1回総合学力試験	大規模地震時医療活動訓練	

29	日		
30	月	キャンサーボード	

2024年10月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
2	水	水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	臨床研修歯科医教育セミナー
3	木		感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備指導委員会
4	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会	こどもサポートチーム運営会議	
5	土			
6	日			
7	月			千葉校舎衛生委員会 臨床研修管理小部会 医療連携委員会
8	火	水病給食委員会	緩和ケア委員会	
9	水	水病リスクマネージメント部会	救急委員会 ICU運営委員会	
10	木	短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 手術室運営委員会 説明と同意の質向上委員会	
11	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会		
12	土		救急車受入停止	
13	日	TDCビル全館停電	救急車受入停止 電子カルテ停止	
14	月	スポーツの日		
15	火	振替授業(月曜日分)、水病褥瘡対策委員会 臨床教授連絡会、講座主任教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	千葉歯科医療センター医局長会
16	水		TDC きゃんサークル 診療材料検討委員会	
17	木	第6回図書館事務連絡会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 労務管理担当マネージャー会議 衛生委員会	
18	金	第178回倫理審査委員会・第119回利益相反委員会	NSTカンファレンス	
19	土	第318回東京歯科大学学会・総会		
20	日	第318回東京歯科大学学会・総会		
21	月		医療安全管理委員会	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会
22	火		クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 外来運営委員会	
23	水	大学院運営委員会、大学院研究科委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会 DPC症例検討委員会	業務連絡会
24	木	TDCビル協議会、衛生委員会 水病教職員研修会	管理診療委員会	
25	金			
26	土			
27	日			

28	月	6年生第3回総合学力試験	インフルエンザワクチン接種 キャンサーボード 院内がん登録小委員会	
29	火	6年生第3回総合学力試験	緩和ケア委員会	
30	水		カルテ監査小委員会 地域連携セミナー	
31	木		インフルエンザワクチン接種	消防訓練

2024年11月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	金	教職員インフルエンザワクチン接種 短大水道橋病院臨床実習小委員会	こどもサポートチーム運営会議	
2	土	短大オープンキャンパス・入試説明会		
3	日	文化の日		
4	月	文化の日 振替休日		
5	火	水病感染予防対策チーム委員会	インフルエンザワクチン接種 緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会 臨床研修管理小部会
6	水	解剖慰霊祭、短大教授会 教職員インフルエンザワクチン接種 水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	教職員インフルエンザワクチン接種
7	木		感染制御委員会 プログラム委員会	教職員インフルエンザワクチン接種 診療録整備指導委員会
8	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	インフルエンザワクチン接種 公認会計士中間監査 がん薬物療法小委員会	
9	土	水病第44回東京歯科大学カリキュラム研修ワーク ショップー歯科医師臨床研修指導歯科医講習会ー(～ 11/10) 短大学校推薦型選抜・学士選抜		
10	日			
11	月		薬事委員会	医療連会委員会
12	火	臨床教授連絡会、講座主任教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	医局長会
13	水	基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会 水病リスクマネージメント部会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会・利 益相反委員会 ICU運営委員会、CPC	
14	木	水病教職員研修会 [臨時] 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	インフルエンザワクチン接種 公認会計士中間監査(～11/15) 収支改善委員会 患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会 衛生委員会	医療連携協議会
15	金	第179回倫理審査委員会・第120回利益相反委員会	第1回BLS講習会 栄養管理委員会	
16	土	短大修学指導に関する保護者説明会	TDC きゃんサークル	
17	日			
18	月	短大教授会、第7回図書館事務連絡会	医療安全管理委員会	千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 薬事委員会(メール会議)
19	火		緩和ケア委員会 第2回医療安全講演会	

20	水		褥瘡対策委員会 カルテ監査小委員会 図書委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会	業務連絡会
21	木	TDC ビル協議会、第 4 回図書委員会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会 ・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 管理診療委員会	
22	金		業務改善委員会	
23	土	学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜、編入学 A、学士等特別選抜 A		
24	日			
25	月		キャンサーボード	
26	火		クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会	
27	水	水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会	
28	木		説明と同意の質向上委員会 内視鏡室委員会	
29	金	水病研修歯科医全体集合、衛生委員会	リスクマネージャー会議 NST カンファレンス 市川リレーションシップカンファレンス	千葉歯科医療センター研修会 (医療安全)
30	土	短大専攻科入学試験(I期)		

令和5年度財務の概要

資金収支計算書

学校法人会計で資金収支計算書を作成する目的は、第一に当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにすること、第二に当該会計年度での支払資金の収入と支出とその顛末を明らかにすることである。当該年度はもとより、前年度以前あるいは次年度以降の諸活動に関する資金も含め、当該会計年度の中で実際に動きのあった全ての支払資金(現金預金)の収支の動きを明らかにするため調整項目を設けている。また、その他の収入・資産運用支出の科目は、繰り返し発生する年中の資金の出入りを総額で表示しているため大きな額となっている。

令和5年度の(収入の部)では、補助金収入は私立大学等経常費補助金や新型コロナ対策の補助金などがあり、補正後の対予算で約1億5,600万円の増となった一方、対前年では新型コロナ対策の補助金が大きく減となり約11億2,700万円の減となった。また、医療収入は対予算では約9億3,900万円減となったものの、対前年では入院・外来とも増収となり、約6億1,200万円増となった。雑収入の対予算増は、主に臨時的な退職者の退職金財団交付金の増やその他の雑収入の増によるものである。前受金収入は、大学・短期大学の令和6年度入学生からの学納金ほかである。その他の収入は、各特定資産からの繰入収入、前期末未収入金収入、貸付金回収収入などである。以上、収入の総額から資金

収入調整勘定の期末未収入金・前期末前受金などを差し引いた収入の部小計は、約475億円となった。前年度繰越支払資金約38億1,100万円を加えた収入の部合計は、約513億1,100万円となった。

(支出の部)では、人件費は対予算で約3億5,200万円の減、対前年では約5,400万円の減となった。教育研究経費は対予算で約3億8,600万円の減、対前年では約5億7,600万円の増となった。管理経費は対予算で約2億400万円の減、対前年で約2億2,500万円の増となった。薬品費や診療材料費増による医療経費の増や水道橋校舎南棟解体費用などがあり、対前年度では増加となったものの予算内執行となった。

施設関係支出は対予算で約4億2,500万円の減、設備関係支出は大学の臨床基礎実習室実習機の更新を先送りしたことなどにより、対予算で約10億1,100万円の減となった。資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入支出・減価償却引当特定資産への繰入支出などを総額表示している。その他の支出は、貸付金支払支出、前期末未払金支払支出などである。

以上、支出総額から資金支出調整勘定の期末未払金等を差し引いた支出の部小計は、約474億8,400万円となり、支払資金約38億2,700万円が次年度へ繰越となった。

財務の概要

令和5年度 資金収支計算書

(単位：千円)

科目	令和5年度予算	令和5年度決算	差異	令和4年度決算	増減
(収入の部)					
1. 学生生徒等納付金収入	4,922,650	4,831,462	△ 91,188	4,856,633	△ 25,171
2. 手数料収入	46,100	44,536	△ 1,564	45,188	△ 652
3. 寄付金収入	36,510	40,605	4,095	58,212	△ 17,607
4. 補助金収入	1,241,540	1,397,121	155,581	2,524,157	△ 1,127,036
(国庫補助金収入)	(868,380)	(996,669)	(128,289)	(1,123,047)	(△ 126,378)
(地方公共団体補助金収入)	(371,160)	(399,052)	(27,892)	(1,399,710)	(△ 1,000,658)
(学術研究振興資金収入)	(2,000)	(1,400)	△ 600	(1,400)	(-)
5. 資産売却収入	-	106	106	-	106
6. 付随事業・収益事業収入	350,000	357,705	7,705	393,835	△ 36,130
7. 医療収入	22,472,830	21,534,159	△ 938,671	20,921,869	612,290
8. 受取利息・配当金収入	35,470	35,284	△ 186	20,069	15,215
9. 雑収入	607,310	677,598	70,288	929,877	△ 252,279
10. 借入金等収入	-	-	-	-	-
11. 前受金収入	1,275,100	1,261,608	△ 13,492	1,248,444	13,164
12. その他の収入	18,913,930	22,459,589	3,545,659	37,067,733	△ 14,608,144
13. 資金収入調整勘定	△ 4,960,460	△ 5,139,632	△ 179,172	△ 5,699,885	560,253
小計	44,940,980	47,500,141	2,559,161	62,366,131	△ 14,865,990
14. 前年度繰越支払資金	3,792,050	3,811,029	18,979	4,429,039	△ 618,010
収入の部合計	48,733,030	51,311,170	2,578,140	66,795,171	△ 15,484,001
(支出の部)					
1. 人件費支出	13,194,220	12,841,739	△ 352,481	12,896,047	△ 54,308
2. 教育研究経費支出	10,816,040	10,430,398	△ 385,642	9,853,969	576,429
3. 管理経費支出	2,773,460	2,569,405	△ 204,055	2,343,974	225,431
4. 借入金等利息支出	14,500	14,040	△ 460	16,123	△ 2,083
5. 借入金等返済支出	289,280	289,280	-	289,280	-
6. 施設関係支出	802,710	377,663	△ 425,047	1,226,898	△ 849,235
7. 設備関係支出	2,809,210	1,798,559	△ 1,010,651	972,076	826,483
8. 資産運用支出	15,107,180	20,119,002	5,011,822	34,896,789	△ 14,777,787
9. その他の支出	1,540,420	1,688,879	148,459	2,099,562	△ 410,683
10. [予備費]	(246,080)				
	55,560		△ 55,560		
11. 資金支出調整勘定	△ 2,461,600	△ 2,644,693	△ 183,093	△ 1,610,576	△ 1,034,117
小計	44,940,980	47,484,271	2,543,291	62,984,141	△ 15,499,870
12. 次年度繰越支払資金	3,792,050	3,826,899	34,849	3,811,029	15,870
支出の部合計	48,733,030	51,311,170	2,578,140	66,795,171	△ 15,484,001

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

令和5年度 活動区分資金収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位：千円)

		科目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,831,462
		手数料収入	44,536
		特別寄付金収入	33,685
		一般寄付金収入	4,010
		経常費等補助金収入	1,350,988
		付随事業収入	184,540
		医療収入	21,534,159
		雑収入	675,147
		教育活動資金収入計	28,658,527
		支出	人件費支出
	教育研究経費支出		10,430,398
	〈教育研究経費支出〉		〈3,117,063〉
	〈医療経費支出〉		〈7,313,335〉
	管理経費支出		2,564,041
	〈管理経費支出〉		〈2,564,041〉
	教育活動資金支出計		25,836,177
	差引		2,822,349
	調整勘定等		716,694
	教育活動資金収支差額	3,539,043	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	2,910
		施設設備補助金収入	46,133
		施設設備売却収入	106
		減価償却引当特定資産取崩収入	17,477,691
		施設整備等活動資金収入計	17,526,840
	支出	施設関係支出	377,663
		設備関係支出	1,798,559
		減価償却引当特定資産繰入支出	19,678,544
		大学移転寄付特定資金繰入支出	2,910
		施設整備等活動資金支出計	21,857,676
差引	△ 4,330,836		
調整勘定等	984,409		
施設整備等活動資金収支差額	△ 3,346,427		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			192,616
その他の活動による資金収支	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	409,334
		大学奨学金特定資産取崩収入	6,251
		貸付金回収収入	73,754
		預り金受入収入	2,414
		仮払金回収収入	28
		敷金保証金受入収入	10
		小計	491,792
		受取利息・配当金収入	35,284
		収益事業収入	173,165
		過年度修正収入	2,451
	その他の活動資金収入計	702,692	
	支出	借入金等返済支出	289,280
		退職給与引当特定資産繰入支出	429,078
		大学奨学金特定資産繰入支出	8,470
貸付金支払支出		133,220	
小計	860,048		

その他の活動による資金収支	支出	借入金等利息支出	14,040
		為替換算差額支出	106
		過年度修正支出	5,259
		その他の活動資金支出計	879,452
	差引	△ 176,761	
	調整勘定等	14	
	その他の活動資金収支差額	△ 176,747	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			15,869
前年度繰越支払資金			3,811,029
翌年度繰越支払資金			3,826,899

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。(単位：千円)

項目	資金収支計算書計上額	教育活動による資金収支	施設設備等活動による資金収支	その他の活動による資金収支
前受金収入	1,261,608	1,261,608	-	-
前期末未収入金収入	4,490,106	4,479,919	10,187	-
期末未収入金	△ 3,891,160	△ 3,848,568	△ 42,592	-
前期末前受金	△ 1,248,471	△ 1,248,471	-	-
収入計	612,082	644,488	△ 32,405	-
前期末未払金支払支出	1,436,318	1,420,828	15,194	296
期末未払金	△ 2,533,507	△ 1,508,629	△ 1,024,568	△ 310
長期前払費用支払支出	4,851	4,851	-	-
建設仮勘定振替	△ 7,441	-	△ 7,441	-
短期前払費用支払支出	114,490	114,490	-	-
前期末短期前払費用	△ 103,462	△ 103,462	-	-
前渡金振替	△ 283	△ 283	-	-
支出計	△ 1,089,034	△ 72,206	△ 1,016,815	△ 14
収入計-支出計	1,701,117	716,694	984,409	14

事業活動収支計算書

令和5年度決算での教育活動収支差額は約2億4,000万円の黒字で、教育活動外収支を含めた経常収支差額も約4億3,500万円の黒字となり、新型コロナ対策の補助金を加味した補正後の対予算では約1億8,100万円の黒字増となっている。特別収支を含めた基本金組入前当年度収支差額は約3億3,600万円で、補正後の対予算で約2億3,500万円の増、対前年では新型コロナ対策補助金の減、水道橋校舎南棟解体などにより約16億800万円の減となった。

事業活動収入計は約289億3,300万円で、補正後の対予算で約7億9,500万円減となった。医療収入が約9億3,900万円の減となったことが主な要因である。

一方、事業活動支出計は約285億9,700万円となり、対予算で約10億3,000万円の減となった。薬品費、診療材料費の増により医療経費が増となったが、人件費、教育研究経費、管理経費は予算内の執行となった。

基本金組入額は、新たな固定資産の取得額から除却および廃棄する固定資産の額を差し引いた額を組み入れた。基本金組入額は約2億1,900万円で、主な要因は大学の教育研究

用機器備品などである。第4号基本金組入額は、恒常的に保持すべき資金を組み入れるが、令和5年度は要組入額が前年度を下回ったため新たな組み入れはない。基本金取崩額は約7億2,700万円を計上し、市川総合病院の教育研究用機器備品の除却などが主な要因である。

前年度決算との比較でみると、医療収入は対前年で約6億1,200万円の増となったが、経常費等補助金のうち新型コロナ対策の補助金は対前年で約10億8,500万円減の約2億4,600万円となった。このほか退職金財団交付金の減などがあり、教育活動収入は対前年で約8億8,400万円の減となった。教育活動支出は、人件費で約6,000万円の減、教育研究経費のうち教育研究経費で約600万円の増、医療経費で約5億1,700万円の増、管理経費は約1億9,000万円の増となり、合計で約6億5,500万円の増となった。教育活動収支差額は約2億4,000万円で対前年比約15億3,900万円の減、経常収支差額は約4億3,500万円で対前年比約15億1,800万円の減となった。

(単位：千円)

科 目		令和5年度予算	令和5年度決算	差 異	令和4年度決算	増 減	
教育活動収支	事業活動収入の部	1. 学生生徒等納付金	4,922,650	4,831,462	△ 91,188	4,856,633	△ 25,171
		2. 手数料	46,100	44,536	△ 1,564	45,188	△ 652
		3. 寄付金	39,010	42,832	3,822	58,217	△ 15,385
		4. 経常費等補助金	1,240,090	1,350,988	110,898	2,514,672	△ 1,163,684
		(国庫補助金)	(868,380)	(951,988)	(83,608)	(1,114,467)	(△ 162,479)
		(地方公共団体補助金)	(369,710)	(397,600)	(27,890)	(1,398,805)	(△ 1,001,205)
		(学術研究振興資金)	(2,000)	(1,400)	(△ 600)	(1,400)	(-)
		5. 付随事業収入	168,150	184,540	16,390	224,044	△ 39,504
	6. 医療収入	22,472,830	21,534,159	△ 938,671	20,921,869	612,290	
	7. 雑収入	606,370	675,147	68,777	926,607	△ 251,460	
	教育活動収入計	29,495,200	28,663,664	△ 831,536	29,547,230	△ 883,566	
	事業活動支出の部	1. 人件費	13,217,620	12,861,483	△ 356,137	12,921,183	△ 59,700
		2. 教育研究経費	13,067,080	12,646,657	△ 420,423	12,123,450	523,207
		<教育研究経費>	<6,047,490>	<5,350,969>	<△ 696,521>	<5,345,091>	<5,878>
<医療経費>		<7,019,590>	<7,295,688>	<276,098>	<6,778,359>	<517,329>	
3. 管理経費		3,156,560	2,913,335	△ 243,225	2,723,213	190,122	
<管理経費>	<3,156,560>	<2,913,335>	<△ 243,225>	<2,723,213>	<190,122>		
4. 徴収不能額等	2,600	1,939	△ 661	395	1,544		
教育活動支出計	29,443,860	28,423,414	△ 1,020,446	27,768,240	655,174		
教育活動収支差額		51,340	240,250	188,910	1,778,989	△ 1,538,739	
教育活動外収支	収入の部	1. 受取利息・配当金	35,470	35,284	△ 186	20,069	15,215
		2. その他の教育活動外収入	181,850	173,165	△ 8,685	169,791	3,374
		教育活動外収入計	217,320	208,449	△ 8,871	189,860	18,589
	支出の部	1. 借入金等利息	14,500	14,040	△ 460	16,123	△ 2,083
		2. その他の教育活動外支出	320	106	△ 214	174	△ 68
		教育活動外支出計	14,820	14,145	△ 675	16,297	△ 2,152
教育活動外収支差額		202,500	194,304	△ 8,196	173,564	20,740	
経常収支差額		253,840	434,553	180,713	1,952,553	△ 1,518,000	
特別収支	収入の部	1. 資産売却差額	-	-	-	-	-
		2. その他の特別収入	15,970	61,197	45,227	34,353	26,844
		特別収入計	15,970	61,197	45,227	34,353	26,844
	支出の部	1. 資産処分差額	157,390	154,031	△ 3,359	39,646	114,385
		2. その他の特別支出	5,820	5,259	△ 561	2,505	2,754
		特別支出計	163,210	159,290	△ 3,920	42,151	117,139
特別収支差額		△ 147,240	△ 98,092	49,148	△ 7,798	△ 90,294	
[予 備 費]		(262,470)					
		4,910		△ 4,910			
基本金組入前当年度収支差額		101,690	336,461	234,771	1,944,755	△ 1,608,294	
基本金組入額合計		△ 1,371,470	△ 219,189	1,152,281	△ 1,332,333	1,113,144	
当年度収支差額		△ 1,269,780	117,272	1,387,052	612,422	△ 495,150	
前年度繰越収支差額		△ 12,337,490	△ 10,996,797	1,340,693	△ 12,848,077	1,851,280	
基本金取崩額		273,250	726,751	453,501	1,238,858	△ 512,107	
翌年度繰越収支差額		△ 13,334,020	△ 10,152,775	3,181,245	△ 10,996,797	844,022	
(参 考)							
事業活動収入計		29,728,490	28,933,310	△ 795,180	29,771,443	△ 838,133	
事業活動支出計		29,626,800	28,596,849	△ 1,029,951	27,826,688	770,161	

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

財務の概要

令和5年度 貸借対照表

令和6年3月31日現在

資産の部

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	((71,459,350))	((69,767,101))	((1,692,249))
有形固定資産	(43,015,668)	(43,551,605)	(△ 535,937)
土地	14,727,429	14,727,429	-
建物	21,125,088	22,243,246	△ 1,118,158
構築物	699,664	752,562	△ 52,898
教育研究用機器備品	5,098,581	4,676,114	422,467
管理用機器備品	422,765	206,113	216,652
図書	938,670	930,726	7,944
車両	3,472	7,975	△ 4,503
建設仮勘定	-	7,441	△ 7,441
特定資産	(27,304,848)	(25,079,123)	(2,225,725)
退職給与引当特定資産	4,945,937	4,926,192	19,745
減価償却引当特定資産	22,178,544	19,977,691	2,200,853
大学移転寄付特定資金	16,463	13,553	2,910
大学奨学金特定資産	163,905	161,686	2,219
その他の固定資産	(1,138,834)	(1,136,373)	(2,461)
施設利用権	1,465	1,680	△ 215
ソフトウェア	2,500	4,190	△ 1,690
収益事業元入金	1,040,646	1,040,646	-
長期貸付金	87,823	87,198	625
長期前払費用	6,171	2,419	3,752
敷金保証金等	230	240	△ 10
流動資産	((9,769,377))	((10,281,972))	((△ 512,595))
現金預金	3,826,899	3,811,029	15,870
未収入金	3,896,388	4,497,284	△ 600,896
貯藏品	189,661	171,981	17,680
短期貸付金	1,739,957	1,697,051	42,906
短期前払費用	115,589	103,462	12,127
前渡金	882	1,165	△ 283
資産の部合計	81,228,727	80,049,073	1,179,654

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	((7,369,392))	((6,815,070))	((554,322))
長期借入金	1,551,360	1,840,640	△ 289,280
長期未払金	866,054	42,196	823,858
長期預り金	6,042	6,042	-
退職給与引当金	4,945,937	4,926,192	19,745
流動負債	((3,492,121))	((3,203,250))	((288,871))
短期借入金	289,280	289,280	-
未払金	1,711,515	1,438,184	273,331
前受金	1,261,622	1,248,486	13,136
預り金	229,703	227,300	2,403
負債の部合計	10,861,513	10,018,320	843,193

純資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	((80,519,989))	((81,027,551))	((△ 507,562))
第 1 号基本金	78,452,739	78,960,300	△ 507,561
第 4 号基本金	2,067,251	2,067,251	-
繰越収支差額	((△ 10,152,775))	((△ 10,996,797))	((844,022))
翌年度繰越収支差額	△ 10,152,775	△ 10,996,797	844,022
純資産の部合計	70,367,214	70,030,753	336,461
負債及び純資産の部合計	81,228,727	80,049,073	1,179,654

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

■ 野口英世博士旧別荘売却手続き完了

米国ニューヨーク州シャンデーケンに本学が所有する野口英世博士の旧別荘について、2024年11月22日（金）に売主である本学と買主双方の代理人弁護士との間で所有権移転の書類を確認し、売却代金の受領をもって、売却手続きが完了した。

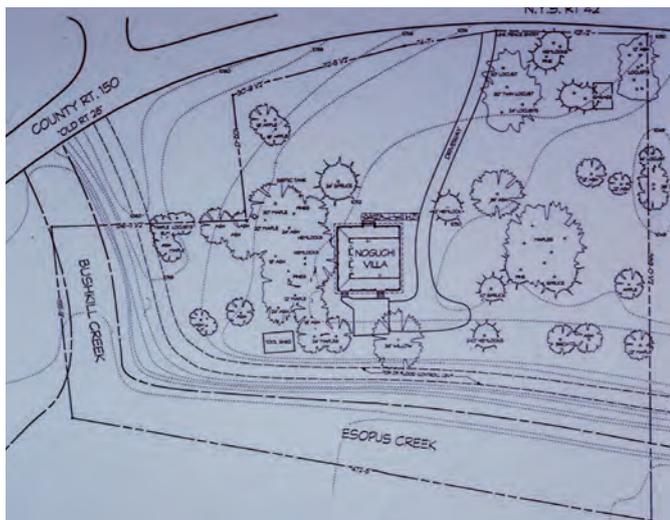
この別荘は、ニューヨーク市マンハッタンから北に約200kmに位置し、周囲を林に囲まれ、近くに小川が流れる自然豊かな場所にある。野口博士が自ら設計をされ、メリー・ロレッタ・ダージス夫人と余暇をここで過ごされていた。

本学は、野口博士ゆかりの施設として保存し、本学の重要な文化資産として活用することを主な目的として購入することを、1991年11月29日開催の第549回理事会で承認、1993年1月に売買契約を締結した。しかしながら、冬季は雪深く、夏季は湿度が高い環境のため、近年は建物内の劣化が著しく、継続した管理および保有が難しいと判断をし、



▲旧別荘外観

2022年2月21日開催の第736回理事会で別荘の売却が承認された。



▲旧別荘敷地図



▲野口博士が描かれたシャンデーケン風景画



▲別荘で撮影された写真



▲メリー婦人と友人達とともに

リレー連載

あのころ私も若かった！

故郷の仙台で中学生になり、新しくできた塾に通い始めた時のことです。そこで関西弁をまくしたてる熱意あふれる女性講師と出会ったことにより、私の人生は大きく変わりました。目標としていた仙台一高に合格はしたものの、成績が伸びず、その塾の先生に相談に行くと、「東北大学に入り、歯科医師となってお父さんの跡を継ぐことも大変かもしれないけど、私からみたら安易なんよ！ アメリカにでも行ってきなさい」と言われました。はじめは「何言ってんだ、この先生は？ そんなことしたら受験勉強が遅れちゃう」と思っていたのですが、そのうちふつふつと留学熱が湧き上がり、高校2年の時、ミネソタ州の高校に留学し、ホームステイをすることになってしまいました。

アメリカの生活は映画などで知っていたつもりでしたが、純朴な県立高校生だった私には毎日がカルチャーショックでした。高校を卒業すると、そのままSt. Paulの4年制大学に進学し、生物学を中心とした勉強が始まりました。同級生は皆、医学部や歯学部を目指しており、熾烈な競争にさらされました。一方で週末には飲み会やダンスパーティーがあり、プライベートも充実させないと相手にされないような生活でした。アメリカでの学生生活が3年目を迎えた頃、日本に帰り、受験勉強をして東京歯科大学に入ることになりました。



今号の「私」は
齋藤 淳 大学院歯学研究所
研究科長

仙台市若林区出身

平成元年 東京歯科大学卒
硬式テニス部

多少なりともアメリカかぶれしていたので、日本流に心持ちを戻そうと、部活は当時もっとも封建的とされていた硬式テニス部に入りました。同級生だけでなく先輩も年下の人もいた環境でしたが、すぐに順応し、テニスに明け暮れる毎日でした。毎年デンタルが開催され、合宿をした軽井沢には、たくさんの思い出があります。テニスは下手だったので、ずっとイレギュラーでした。しかし6年間体育会系の部活を続けられたことは大きな自信になりましたし、そこでの人間関係は今でも宝となっています。

大学院では英語論文をたくさん読んだり海外で発表する機会がありました。高校・大学とアメリカで学んだ経験を生かすことができましたし、海外に多くの友人を作ることができました。

その後、故郷の仙台で父と一緒に地域歯科医療に従事したり、大学に戻ったりと紆余曲折がありました。2022年には学会で訪れたアリゾナ州Phoenixで高校時代のホストファミリーと久しぶりに再会も果たしました。

中学の時、あの先生に出会わなければ、こんな波乱万丈の人生とはならなかったかもしれません。



あっくん！ アメリカにでも行ってきなさい！

ミネソタの大学では毎週末パーティー



大学院4年次（歯周病学講座）
ロードアイランド州での
インプラント臨床研修



1978年



2022年

2022年、ホストファミリーと再会



千葉校舎のコートにて
後輩と球拾い



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

上田 貴之

岡田 舞

世木田 晋

国分 栄仁

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

前田 孝人

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

編集後記

第56回東歯祭が終わりました。

かつて、歴史の重みが染みこんだ旧水道橋校舎と市川にあった小さな木造の講堂から始まった東歯祭は、千葉校舎での長い時代を経て、再び水道橋で新たな時を積み重ねている。

いつの時代だって、スポットライトの中、舞台の上ではたくさんのカラフルな個性と才能たちが躍動し、観客のこころを揺り動かしてきた。それは今も変わらない。

歯科大学という大きなシステムの中かでは、試験の成績だけで評価されてしまうことも多いけれど、自分がここに生きているという価値はそんなものでは測れない。だからこそ、自分の中にきっとあるはずの才能や可能性を見つけるために、舞台の上に立つ。

拍手のあと、ステージの明かりが消えていつもの自分に戻った時、仲間から掛けられた言葉に涙をこらえる。この仲間とだから一緒にやり切ることができたのだと。

時には互いにぶつかりながら、夢中になって何かにチャレンジした経験は、たとえそれがうまくいかなかったとしても、きっと、かけがえのないものとして、未来の自分を支えてくれる糧となる。どんな経験もプラスにできるはずなのだから。



YouTuberのなごなごカップルさんを囲む、ステージ企画チームリーダーの篠田英菜さんとメンバーたち